

大分市立城南小学校 学力向上プラン 1（8月）

学校教育 目標	主体的に学び 豊かな感性をもち たくましく行動できるこどもの育成
育成を目指す 資質・能力	・自分の考えをもち、発言できる ・なかまの考えを大切にし、伝え合うことができる ・探究心をもって学びを深めることができる

	学力状況について	学習状況について
児童生徒の 課題	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 国語は漢字の書く力、修飾される言葉を把握する力が弱い。また、調べたことをもとに文章を書いたり、決まった条件の中で文章を書いたりする力が弱い。算数は計算する力が弱く、また、文章問題から必要な情報を読み取り立式・説明する力が弱い。	各種学力調査の分析結果から明らかになった課題 国語や算数が好きであることや得意であることには、学年による差がある。そのため、学習への意欲や家庭学習の習慣などにも同様の差が見られる。授業の中では、書くことはよくできているが、それを主体的に伝えることには課題が見られる。読書の量が少なかったり、新聞を読む習慣がなかったりする実態も見られる。
	これまでの学力向上の取組に対する児童生徒の状況(授業及び授業以外の側面から) 授業では小テストや習熟度に分けた時間を設けることで基礎学力の定着を図った。また、ペアワーク・グループワークを活発に行い、思考力・表現力の向上を図った。さらに家庭学習の内容を吟味し、既習内容の復習・定着を目指した。結果として1学期の単元テストにて、「知識・技能」は国語83.6、算数87.5、「思考・判断・表現」は国語85.9、算数81.5と概ね目標を上回った。	
指導の 状況	1 組織的な授業改善の取組状況 自分の考えをもたせる時間や伝え合う時間の確保は授業中に十分できてきている。(アンケート結果より肯定回答率87%)また、授業のまとめをする時間の確保も十分できている。(肯定回答率94%)しかし、考えの深まりや広がり、変化が見とれるようなまとめになってはいない。 2 その他の学力向上に向けた指導の取組状況 家庭学習の充実を図るため内容を吟味し、学習の定着を図ることができる課題の設定はできている。また、学習の苦手な児童に補習を行うことで学習に困りが出ないようにしている。しかし、家庭との連携がまだ不十分であり、これからも継続した声掛けが必要である。	



学力に関する達成指標
○国語、算数の単元末テストにおいて「知識・技能」の観点、80点以上のクラスが全クラス中80%以上。 ○国語、算数の単元末テストの「思考・判断・表現」の観点、70点以上のクラスが全クラス中80%以上。



	【授業改善】	【家庭・地域との協働】
今後の 具体的 な取組	〈授業改善のテーマ・重点〉 自他の思いや考えを大切にし、伝え合うことのできるこどもの育成 ～道徳科における意欲的に学び合う場を通して～	
	〈取組内容〉 《基礎学力の定着》 ・練習問題を解く時間の確保 ・振り返りによる学習内容の定着 ・授業中に基礎・基本の定着を図る時間を設定	〈家庭・地域の取組内容〉 ・家庭との連携を図る ・家庭学習の充実、宿題チェックのお願いをする
	〈取組指標〉 ・教師は国語、算数においては毎時間もしくは単元末に振り返りを行い、子どもたちの授業内容の理解度を把握する	〈家庭・地域の取組指標〉 ・連絡帳等での家庭と連携を密にする ・学級懇談等で、家庭学習の時間の確保に向けて協力を依頼する
	〈検証指標〉 ・国語、算数の単元末テストにおいて知識・技能の観点、クラス平均80点以上	〈家庭・地域の検証指標〉 ・学校評価において「家庭では、学習の手引きの学習時間を意識して宿題などの家庭学習に取り組ませている」と回答している保護者が70%以上
	【授業改善以外の学力向上の取組】 ・個別指導など、個に合った指導。 ・家庭学習の内容の吟味・習慣化 ・対話の楽しさ、意義の実感。認め合い尊重し合う学級づくり。(人間関係づくりプログラムの定期的実践) ・学校運営協議会や懇談会等において達成指標を共有しつつ、学校・家庭・地域の役割を明確にする。	
	〈取組内容〉 《自分の考えを伝え合う授業》 ・自分の考えや思いを書く時間の確保 ・ペアトークなど伝え合う・話し合う場を設ける	
	〈取組指標〉 ・教師が課題に対する考えやまとめを書く時間を毎時間5分以上確保し、発言を促し交流する ・教師がペアでの話し合い活動を一日1回以上設定する	
	〈検証指標〉 ・国語、算数の単元末テストの「思考・判断・表現」の観点、クラス平均70点以上	